

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。
ここに当社第163期報告書(2019年4月1日から2020年3月31日まで)
をお届けいたします。

2020年6月

代表取締役社長 木船 正彦



当期の概況

POINT

事業環境の厳しさが増大した結果、
当期は売上高が減少し、損失を計上

売上高

11,799百万円

経常利益

△1,077百万円

親会社株主に帰属する当期純利益

△998百万円

当連結会計年度におけるわが国経済は、堅調な企業収益を背景に雇用・所得環境の改善が続くなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかし、消費税の増税に伴う個人消費の減少、米中通商摩擦の動向や英国のEU離脱による影響等、先行きに不透明な状況が続いています。また、2020年に入り、新型コロナウイルス感染症拡大による世界経済の先行きに対する不安が高まり、消費、貿易等の通商、投資他の極度の落ち込みが発生しております。

当社グループが主として事業を展開しております新聞業界は、新聞購読者数や広告収入の減少等により、依然として新聞社の設備投資に対する慎重な姿勢が変わらず、当社にとって厳しい状況が続きました。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から当連結会計年度終了時期にかけ、新聞社各社の販売収入、広告収入にさらに大幅な落ち込みがみられ、現在もその傾向が続いております。

このような事業環境のもと、当社は、輪転機の売上拡大に向けた積極的な営業活動や受注確保に努めることはもとより、保守サービス事業の強化やマーケット・インの考え方に転換した製品開発やサービスの提供を行ってまいりました。また、新規事業の構築に向けた連結子会社との連携、AI関連事業の拡大による輪転機ビジネスに係わる新たな事業の創出を図っております。

国内においては、ランニングコストの大幅な削減を可能とし、かつ環境適合性の優れた「カラートップ・エコワイドIIオフセット輪転機」を日本経済新聞社様と北海道新聞社様にそれぞれ2セットずつ、アサガミプレスセンター株式会社様に1セットを納入いたしました。また、同じく「カラートップ・エコワイドIIオフセット輪転機」を静岡新聞社様より5セット、朝日新聞社様より2セットを受注いたしました。さらに、低速から高速まで安定した印刷品質を誇る「カラートップ6200UDオフセット輪転機」の印刷ユニットを宮崎日日新聞社様に納入いたしました。

海外では、中国の無錫日報報業集団 無錫報業発展有限公司様(無錫日報などを発行)より受注した、少数から大部数まで効率的に印刷ができるコンパクトな「カラートップ4200UDオフセット輪転機」1セットを納入予定であります。現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で現地据付を停止しております。

以上、当社の事業環境にさらに厳しさが増大した結果、当期の売上高は117億9千9百万円(前期比10.7%減)と前連結会計年度と比較し減少し、期初の予想を下回る結果となりました。利益面につきましては、売上高が予想を下回ったことおよび受注案件の採算の悪化のため、営業損失は11億6千3百万円(前期は営業利益3億8千6百万円)、経常損失は10億7千7百万円(前期は経常利益5億1千8百万円)を計上いたしました。また、法人税等調整額の戻入益2億3百万円の計上などにより親会社株主に帰属する当期純損失は9億9千8百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純利益7億8千8百万円)となりました。

次期の見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況下で当社グループは、さらなる収益力改善と財務基盤の強化をビジョンとした5か年の新中期経営計画を策定し、2019年4月からスタートいたしました。経営テーマに「受注力の回復」「営業黒字の安定化」「生産性の改善」「新規事業の構築」「資本政策の策定と推進」「雇用環境の改善」「連結利益の極大化」を掲げ、各施策の実行を着実に推進し、積極的な売上げの拡大と経営基盤の強化に努めてまいります。

	次期	当期比	当期実績
売上高	12,250百万円	3.8%	11,799百万円
営業利益	470百万円	-%	△1,163百万円
経常利益	400百万円	-%	△1,077百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	280百万円	-%	△998百万円

TOPICS 1

カラートップ・エコワイドⅡ、朝日新聞社様名古屋工場に納入決定



▲ 導入する「カラートップ・エコワイドⅡ」の同型機

朝日新聞社様より、名古屋工場向け「カラートップ・エコワイドⅡ」オフセット輪転機2セットを受注いたしました。

朝日新聞社様におかれましては、川崎工場5セットに続き、当社の輪転機をご採用いただくことになりました。

すでにカラートップ・エコワイドⅡが、本格稼働をしている川崎工場では、「朝日プリンテック2018年度工場業績評価一位」を受賞されました。名古屋工場の機種選定には、「紙面品質」、「安定稼働率」、「ランニングコスト」等を高く評価していただいたと考えております。

現在、名古屋工場では、当社製の輪転機3セット体制のもと、愛知県、岐阜県全域と三重県・静岡県の一部向けの朝日新聞の他、日刊スポーツや英字新聞などを印刷しています。

この度のご導入により、輪転機3セットのうち2セットがカラートップ・エコワイドⅡに更新されることとなります。

ご導入いただくカラートップ・エコワイドⅡは、高速DIP（デジタルインキポンプ）方式で、最高印刷速度16万部/時、40ページ（16ページカラー対応）が印刷可能な機械構成となっています。

本稼働は1セット目が2021年3月上旬を予定しております。

TOPICS 2

カラートップ・エコワイドⅡ、静岡新聞社様に納入決定



▲ 静岡新聞社様制作センター

静岡新聞社様より、「カラートップ・エコワイドⅡ」オフセット輪転機5セットを受注いたしました。

現在、静岡新聞社様におかれましては、合計7セットの輪転機が稼働中ですが、その全てが当社製の輪転機となっています。

この度のご導入により、7セットのうち5セットがカラートップ・エコワイドⅡに更新されることとなります。

静岡新聞社様と私ども東京機械製作所との関係は、静岡新聞社様の設立当初からのお付き合いで、長年にわたりご愛顧を賜っております。

この度、ご導入いただくカラートップ・エコワイドⅡは、高速DIP（デジタルインキポンプ）方式で、最高印刷速度16万部/時、機械構成は、40ページ印刷（24ページカラー対応）×4セットと、32ページ印刷（24ページカラー対応）×1セットです。

本稼働は1セット目が2021年8月を予定しております。

TOPICS 3 カラートップ・エコワイドⅡ、アサガミプレスセンター株式会社様にて更新工事が完了



▲ 輪転機と神事の様子



▲ アサガミプレスセンター株式会社様

かねてより「カラートップ・エコワイドⅡ」オフセット輪転機への更新工事が行われておりましたアサガミプレスセンター株式会社様において、2019年12月に稼働を開始しました。

アサガミプレスセンター株式会社様は、総合物流企業アサガミ株式会社様のグループの一員で、日刊紙を中心に、週刊紙、月刊紙、季刊紙などの新聞印刷のほか、各種チラシやパンフレットなどの商業印刷も手がける総合印刷会社です。

今回ご導入いただいたカラートップ・エコワイドⅡは、高速DIP（デジタルインキポンプ）方式で、カットオフ546mm、最高印刷速度16万部/時、32ページ（16ページカラー対応）が印刷可能な機械構成となっています。

オプションとして、優れたペースター成功率と損紙低減制御によって、ランニングコスト削減に効果を発揮する「ペースター損紙低減制御システム」や、少人数による印刷準備作業と紙通しでの白損紙削減を可能にする「FWL損紙低減モード」、印刷準備時間を短縮する「高速FWL」、刷版自動着脱装置「T-PLATER」などもご採用いただきました。

2019年11月、本格稼働に先立ち、アサガミプレスセンター株式会社様において、神事が執り行われ、今後の安全と安定稼働を祈願しました。

当社ホームページリニューアルのお知らせ

この度、当社ホームページをリニューアルいたしました。今回のリニューアルでは、ご利用者の皆さまに、より見やすく、情報を分かりやすくお伝えできるようにデザインや構成を全面改善いたしました。今後も多くの皆さまにご利用いただけるサイト作りを目指し、内容のさらなる充実を図り、より活用しやすい情報提供を行ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。当社の情報は以下のサイトでご覧いただけます。

<https://www.tks-net.co.jp/>

東京機械製作所

検索



Topics 2020/04/14 【お知らせ】 当社生産拠点、かずさテクノセンターにおける新型コロナウイルス感染症の発生について

TOPICS 4 読売新聞東京本社様と岩手日日新聞社様、東京機械製作所が「青森高速オフセット」運営で基本合意



▲基本合意した3社長

2020年2月、読売新聞東京本社様と岩手日日新聞社様、東京機械製作所の3社は、読売新聞東京本社様が岩手日日新聞社様の完全子会社である印刷会社「青森高速オフセット」(青森県弘前市)の全株式を取得し、当社が青森高速オフセットの運営に協力することで基本合意しました。

この合意により、読売新聞東京本社様は青森高速オフセットを完全子会社化するほか、工場建物と輸転機も買い取ります。

東京機械製作所は、技術者を青森高速オフセットに常駐させることで、工場の保守コストを抑制するなど効率的な工場運営に協力するとともに、新聞印刷業務に携わることで得られる技術的知見を製品開発に活かし、新聞業界、新聞印刷業界に資する技術的な開発を進めてまいります。

TOPICS 5 本社を港区三田に移転



▲本社が入る三田日東ダイビル

2020年1月、当社は東京都港区三田の三田日東ダイビルへ本社を移転いたしました。本社が入る三田日東ダイビルは、都営地下鉄浅草線「泉岳寺駅」より徒歩5分、JR山手線／京浜東北線「高輪ゲートウェイ駅」からも徒歩12分の交通至便な立地に位置します。

新しい本社では、各部署を1フロアに集約することで、コミュニケーションの活性化、人材や組織の一体化、業務の効率化を進めてまいります。

連結財務ハイライト

売上高 (単位: 百万円)



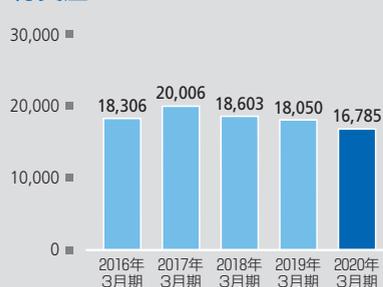
経常利益 (単位: 百万円)



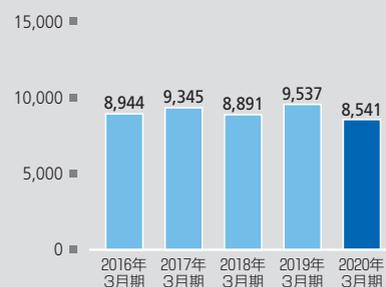
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



総資産 (単位: 百万円)



純資産 (単位: 百万円)



1株当たり当期純利益 (単位: 円)



連結財務諸表 (要旨)

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	
	当期末 (2020年3月31日現在)	前期末 (2019年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	12,891	13,960
固定資産	3,894	4,090
有形固定資産	3,335	3,444
無形固定資産	19	14
投資その他の資産	539	631
資産合計	16,785	18,050
負債の部		
流動負債	4,458	4,337
固定負債	3,785	4,176
負債合計	8,244	8,513
純資産の部		
株主資本	8,032	9,127
資本金	4,435	4,892
資本剰余金	1,335	1,449
利益剰余金	2,263	3,358
自己株式	△ 1	△ 571
その他の包括利益累計額	△ 438	△ 528
非支配株主持分	946	937
純資産合計	8,541	9,537
負債・純資産合計	16,785	18,050

注：金額は表示単位未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	
	当期 (2019年4月1日から 2020年3月31日まで)	前期 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)
売上高	11,799	13,218
売上原価	11,123	10,851
売上総利益	676	2,367
販売費及び一般管理費	1,839	1,980
営業利益又は営業損失(△)	△ 1,163	386
営業外収益	123	142
営業外費用	38	11
経常利益又は経常損失(△)	△ 1,077	518
特別利益	-	495
特別損失	6	5
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△ 1,084	1,008
法人税等合計	△ 96	167
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 987	841
非支配株主に帰属する 当期純利益	11	53
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△ 998	788

注：金額は表示単位未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	
	当期 (2019年4月1日から 2020年3月31日まで)	前期 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	35	96
投資活動による キャッシュ・フロー	115	579
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 109	△ 95
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 1	2
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	39	583
現金及び現金同等物 期首残高	4,282	3,699
現金及び現金同等物 期末残高	4,322	4,282

注：金額は表示単位未満を切り捨てて表示しています。

連結株主資本等変動計算書 2019年4月1日から2020年3月31日まで

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	4,892	1,449	3,358	△571	9,127	0	△207	△322	△528	937	9,537
当期変動額											
減資	△457	457			-						-
剰余金の配当			△96		△96						△96
親会社株主に帰属する当期 純利益又は親会社株主に帰 属する当期純損失(△)			△998		△998						△998
自己株式の取得				△0	△0						△0
自己株式の消却		△570		570	-						-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						△0	33	56	90	8	98
当期変動額合計	△457	△113	△1,094	570	△1,095	△0	33	56	90	8	△996
当期末残高	4,435	1,335	2,263	△1	8,032	0	△173	△265	△438	946	8,541

注：金額は表示単位未満を切り捨てて表示しています。

会社概要 (2020年3月31日現在)

商号	株式会社東京機械製作所
創業	1874(明治7)年
設立	1916(大正5)年2月15日
資本金	44億3,500万円
上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部
従業員数	271名(連結421名)
本社	〒108-8375 東京都港区三田三丁目11番36号三田日東ダイビル6階 電話：03(3451)8141(代表)
かずさテクノセンター	〒292-0818 千葉県木更津市かずさ鎌足一丁目6番 電話：0438(20)5551(代表)
営業所 サービスセンター	関西、北京代表処(中華人民共和国)、 北海道、東北、中部、西日本

役員 (2020年6月26日現在)

取締役	代表取締役社長	木船	正彦
	取締役	青木	宏始
	取締役	都並	清史
	取締役	原永	幸治
	取締役	安中	正弘
監査役	常勤監査役	佐藤	昌良
	常勤監査役	戸山	幹夫
	監査役	坂本	淳一

株式の状況 (2020年3月31日現在)

発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式総数	8,728,920株 (自己株式1,446株を含む)
株主数	7,362名(前期末比145名減)
大株主(上位10名)	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	500	5.72
株式会社三井住友銀行	423	4.84
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	382	4.38
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	256	2.94
原田 實	221	2.53
株式会社みずほ銀行	212	2.43
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	160	1.84
住友生命保険相互会社	138	1.58
芝 康 平	107	1.22
芝 則 之	101	1.15

(注) 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



所有株数別分布状況



株式についてのご案内

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	3月31日 (中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

郵便物送付先・お問い合わせ先

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほ証券株式会社 本店、全国各支店および営業所
ご注意	未払配当金の支払 ^(※) 、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取・買増以外の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

※未払配当金のみ、みずほ銀行全国本支店でもお取扱いたします。

単元未満株式(1~99株)の買取・買増請求制度のご案内

当社株式の証券市場での取引は100株単位となっており、単元未満株式を市場で売買することはできません。当社では、「単元未満株式の買取請求制度」および「単元未満株式の買増請求制度」を採用しておりますので、ぜひお手続きくださいますようお願い申し上げます。
なお、決算日・中間決算日、およびそれ以外の株主確定日前の一定期間については、受付停止期間となります。証券会社に口座をお持ちの場合はお取引の証券会社に、特別口座の場合は、上記のみずほ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

買取・買増制度の例(170株ご所有の場合)

